

【計画名:徳川美術館の文化観光拠点計画】

①計画目標の達成状況

目標項目名(単位)	R2			R3			R4		R5		R6	
	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	目標	実績	目標	実績
来訪者の満足度 日本人 (%)	85	—	—	85	—	—	85		85		90	
来訪者の満足度 外国人 (%)	—	—	—	70	—	—	75		80		85	
来館者数 日本人 (人)	80,000	62,717	78%	160,000	104,124	65%	200,000		225,000		235,000	
来館者数 外国人 (人)	1,000	411	41%	3,000	211	7%	5,000		7,000		10,000	

②計画目標の達成状況に関する分析・評価

<p>(分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R2は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、来館者が通常年に比し70%減(約6万人)となり、厳しい財務状況となった。 ・R3も新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置が継続され、前年度より若干の改善はみられたものの、来館者が通常年に比し50%減となり、厳しい財務状況が継続した。 <p>(評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来館者数の減少により、美術館運営上の収入が不足し、計画自体を最小限のものにとどめざるを得なかった。 ・このような状況下ではあったが、事業6-①の部分的な空調設備の修理、事業1-①の壁付き展示ケース照明LED化、事業1-②の移動式展示ケースの更新を実施し、文化資源の魅力の増進に関する事業の一部を実施した。また、アドバイザー業務の委託により今後の計画推進のための助言を得た。 <p>※来館者数の外国人(人)は受付での目視による集計。来館者の満足度については、R2、R3とも新型コロナウイルス感染症拡大により、臨時休館や展覧会、企画、講座も中止および延期を余儀なくされ、正確な調査が難しく実施できなかった。</p>

③計画で取り組んだ事業の進捗状況

事業番号	事業名	R2	R3	事業類型毎の実績額
事業1-①	壁付き展示ケース照明LED化(新館展示室)	名品コレクション展示室第1・2・5室の壁面ケースおよび第5展示室木工ケースのLED工事を実施	名品コレクション展示室第1~4室の展示ケースの照明のLED工事を実施	23百万円
事業1-②	移動式展示ケースの更新	—	移動式展示ケース5台を導入	
事業1-③	尾張徳川家ゆかりの『源氏物語』を活用した「読み継がれた源氏物語」展覧会事業	—	—	
事業1-④	講堂の利用環境改善による文化財鑑賞の魅力向上のための事業	—	—	
事業1-⑤	夜間開館による文化財鑑賞の魅力増大のための環境改善・整備事業	—	—	
事業2-①	文化財管理システム連動の展示用キャプション作成システムの更新	—	文化財管理システムの再構築	6百万円
事業2-②	国宝「源氏物語絵巻」(レプリカ)展示・解説スペースの更新(デジタル化と多言語化)	—	—	
事業2-③	スマホ・タブレットを利用した展示解説(多言語)の導入(及び館内Wi-Fi設備更新)	—	—	
事業2-④	所蔵品高精細画像システム(既存Powers of InformationのWindows95ベース・タッチパネル)のバージョンアップ(多言語)	徳川美術館の魅力増進に向けたアドバイザー業務を実施	—	
事業2-⑤	初心者・入門者向け解説・ワークシート(多言語)等の開発・作成	—	—	
事業2-⑥	体験型デジタル機器導入及び子ども教室用体験スペースの拡充・ビデオルームの更新	—	—	
事業3-①	名古屋城との連携を目的とした割引チケットの導入	—	—	
事業3-②	和食レストラン(宝善亭)及び茶室への庭園通路バリアフリー化	—	—	
事業3-③	ミュージアムライブラリーの設置(英文図書を含む)	—	—	
事業3-④	キャッシュレスに対応する券売・予約・会員・経理等基幹システムの効率化(利便性向上)	徳川美術館の魅力増進に向けたアドバイザー業務を実施(事業2-②,③,④,⑥と同事業)	—	
事業3-⑤	その他来館者の利便性増進による満足度向上を通じたリピーター増加を図るための事業	—	—	
事業4-①	喫茶スペースの拡充と提供品のクオリティ向上	—	—	
事業4-②	ミュージアムショップのスペース拡大と新規提供品の開発	—	—	

事業番号	事業名	R2	R3	事業類型毎の実績額
事業5-①	多言語によるPR動画の作成とWEB広報	—	—	—
事業5-②	多言語による旅行社・団体向け営業ツール(徳川園全体)の製作と配布、WEB発信	—	—	
事業5-③	HPのリニューアル・多言語化	—	—	
事業6-①	展示室および展示室以外の空調設備更新	東ロビー室内機工事	—	1百万円
事業6-②	講堂設備の更新(プロジェクター、Wi-Fi関連設備、LAN回線、照明設備)	—	—	
事業6-③	体験型教室用備品の拡充(項目2-⑥関連)	徳川美術館の魅力増進に向けたアドバイザー業務を実施(事業2-②,③,④,⑥と同事業)	—	
事業6-④	ナイトミュージアム用のライトアップ設備導入	—	—	
事業6-⑤	玄関・ロビー等の照明のLED化	—	—	
事業6-⑥	キャプション台・リスト台の更新	—	リスト台の更新	
各年度ごとの実績額→		6百万円	24百万円	30百万円

④事業の進捗状況に関する分析・評価

<p>(分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザー業務の下で、徳川美術館が文化観光拠点として魅力増進するための方途について助言を得た。 ・事業6-①展示室及び展示室以外の空調設備更新、事業1-①照明のLED化、事業1-②移動式展示ケースの更新、2-①文化財管理システムの更新、事業6-⑥リスト台の更新により、作品をより望ましい環境で鑑賞する施設設備の一部が実現した。 <p>(評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業1-①については、は予定通り実施。 ・事業1-②移動式展示ケースの更新、2-①文化財管理システムの更新、事業6-⑥については今後の評価(来館者アンケート調査等)をまつことになるが、新型コロナウイルス禍による影響の下、来館者数の大幅減少が継続しており、計画をフルに実施するための自主財源が不足する状況となったため、R2・R3年度は最小限の計画実施にとどまった。(R4についてもこのような状況はなお継続する見込み)
--

⑤拠点施設の要件に関する取組状況

	↓文化観光拠点施設名
要件	徳川美術館
・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介	展覧会毎に展覧会の見どころを約5分間番組を作成しユーチューブで紹介。TwitterやFacebookなどのSNSで展覧会の見どころ作品を紹介。
・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介	「読み継がれた源氏物語」展において、源氏物語絵巻の各場面ごとの解説を日本語・英語で電子ブック形式でWEBで紹介、館内ではタブレット端末を設置。
・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介	「読み継がれた源氏物語」展において、展覧会内容を日本語・英語・簡体字・繁体字・ハングルで表記したパンフレットを館内配布およびホームページに掲載。
・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築	名古屋市観光文化交流局や名古屋観光コンベンションビューローと連携し、観光拠点として、観光事業に参加。旅行会社・企画会社への貸切開館やナイトミュージアムを実施。
・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析	毎月、館独自のWEB分析を業者に依頼し、分析結果を館内で共有。展覧会や企画の効果を分析し、企画や発信方法、ホームページの内容を改善。 展覧会毎にQRコードからのアンケートを実施。徳川美術館および展覧会の満足度などのデータを収集。来館者の所在地や年齢、満足度、意見から、今後の展覧会、企画や広報で活用。
・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びK P I の設定・P D C A サイクルの確立	来館者数を中期・長期で設定。令和3年度の文化庁のコーチング後、職員全員で徳川美術館開館100周年にむけて、館の運営について検討。 目標値に向けての展覧会や企画を計画し、事業後はアンケート等で振り返り、次に活かす手順を設定。

⑥観光関係者（DMOなど）からの評価

徳川美術館は当地域の最も重要な観光文化施設であり、地域の宝だと考えている。本計画については新型コロナウイルス感染拡大前に計画されたものだが、特に新型コロナウイルス感染症の影響で観光関連産業も大打撃を受けた後、徳川美術館におかれては、地域の観光関連事業者との連携による誘客促進のほか、観光庁が公募・採択した「誘客多角化等のための魅力的な滞在コンテンツ造成実証事業」にも積極的に取り組まれている。本計画による魅力増進もそうした取り組みを後押ししているものだと考えており、今後のインバウンドの回復も見据え、本計画を確実に推進していかれることを期待したい。
((公財) 名古屋観光コンベンションビューロー)

⑦今後の改善の方向性

- ・新型コロナウイルス感染症収束後の年間来館者数25万人を目標とする。
- ・事業5のWEB広報を強化し、徳川美術館の魅力や情報を発信し、来館者誘致を目指す。
- ・事業4の喫茶スペースやミュージアムショップについて、売上から効果を把握し、ブラッシュアップしてゆく。
- ・事業1のLED工事や移動式ケースの更新とともに、展示方法を改善し、国内および海外からの来館者を魅了する工夫をする。
- ・コーチングの提案をうけ、更に改善していく予定（必要ある場合はR4年度中に計画の修正を行なう）。